



明德学園の  
ひと  
「ハタラク人」

#004

毛戸 健嗣 さん

## 受けたダメージも生きた教訓、 経験はすべて将来へつながる

小学校の卒業文集に「将来は家業の精密板金工場を継ぐ」と夢を描いた、その頃の思いをずっと胸に刻み続けています。

地元の工業高校を卒業後、当面は多くの経験を積もうと就職活動を行ったのですが、機械知識を得ただけで働き出していいのか？と自問自答の日々が続きました。出た答えは進学、思い描く夢は機械知識だけでは実現できないと考え、2年間でしっかりと経営学が学べる京都経済短大へ入学したのです。

経短で経営学・経済学を学んでいくうちに、国際社会を見据えた貿易の勉強も必要ではないかという考えに行きつき、国際経済学が学べる4年制大学への編入を決意しました。編入後間もなく、今まで学んだ知識と自分の可能性を試してみたくなり、友人2人と派遣会社を起業しました。業績は想像以上に伸びたのですが、持ち寄った自己資金では到底足らず、あっという間に回転資金不足に陥りました。やむを得ず事業の継続を断念し、しばらくは借金の返済が続きました。

振り返れば、その時に受けたダメージ、その時の教訓は生きた経験として自分の中にいつも宿っています。常に何かを追求していきたい私にとって、失敗経験は次につながる大きな原動力となっています。

大学卒業後、社長である父親が引退する前に技術や経営手法を学ぼうと、家業に飛び込んだのが24才の時。それからはボーイング社製の航空機部品の製造やベトナム事業部の立ち上げなど、新たな事業にも挑戦してきました。その根底をいつも支えているのは今まで学んだ機械知識をはじめ経営学・経済学などの基礎力です。

在校生の皆さん、学生時代はいろいろなことにチャレンジして下さい。人は失敗しても芯さえしっかりしていれば何にでもなれます。

これから卒業する皆さん、これまでのいろいろな経験はすべて将来へつながっています。一步一步踏みしめて前進して下さい。基礎があつてこそ、仕事の醍醐味を実感できる社会人になれるはずです。

明德学園の  
「ハタラク人」は、  
「ハタラク」マインドを  
もって社会で活躍する卒業生  
などが、仕事や人と関わる上  
で大切にしていることを紹介  
するコーナーです。

### 毛戸 健嗣(けど・けんじ)

平成13年に京都経済短期大学を卒業後、追手門学院大学経済学部へ編入。株式会社毛戸製作所に入社後、航空板金部長を経て、現在は取締役兼統括部長。明るい雰囲気のある工場こそ働きやすく、やりがいもてる職場だという信念のもと、外部セミナーなどにも積極的に参加している。また、工場板金技能士の育成に注力し、自らも工場板金1級を取得、現在は特級資格取得に挑戦中。